

ゆずりは通信

第13号 平成22年10月31日(隔月発行)
発行：ゆずりはの会事務局
電話：0565-35-7182
Eメール：takekaki@hm8.aitai.ne.jp
ホームページ：
<http://www.hm9.aitai.ne.jp/~warabino/>

“もしもノート”作成講座が終わって語る会 9月

時：9/14(火) 午後7時～9時 場所：福祉センター 22 研修室
参加者：14名

1. はじめに

ゆずりはの会の 今後の進め方など、語り合うために集まりました。その結果、今後も毎月集まることになりました。第2火曜日です。次回は

10/12(火) 午後7時～9時、場所：福祉センター 22 研修室です。

みなさん、どんなテーマがよいかを考えてきて、2分位で発表する。なにも提案しない場合でも、参加して「お任せ」とか言ってください。

2. 語る会の様子

2ヶ月ぶりの集まりですので、まず近況報告から始まりました。

竹内一良さん

高齢福祉課から「高齢者を考える会」に参加するように誘われる。この会では、現在11月11日の「介護の日」の内容を検討中。

市民講座の続きとして社協と一緒に定期的に集まって「出場所」作りを語りあっている。

林さん

高齢者審議会を退任し、民生委員を引き受ける。

竹内さんと一緒に「高齢者を考える会」に参加している。

加藤さん

民俗学者の柳田国男、宮田登の全集と鎌田實の著作を読破中で

日本全体が大きく変革しているという感想を持つ。例えば同じ組の8軒中、葬式には半分しか出てこない。

竹山さん

「もしもノート」で自分を見つめられた。今は「笑い太極拳」のグループと一緒に施設や老人クラブを訪問している。気功をして初孫が元気に育っている。

額田さん

若い時から「死」について考えてきた。今後自分がどう老いていくか興味がわく。

松田さん

「もしもノート」で自分を見つめるきっかけができた。笑い学会に参加して笑いの効果を実感している。

河野さん

「もしもノート」を家族で共有することができた。俳句、フォークダンス、ボランティアで忙しくしている。臓器移植が法改正で増えている。加藤さんのように読書に興味あり。

釘宮さん

この2ヶ月の間に死者が3人あり、そのうち一人はとても元気な40歳代の友人で蜘蛛膜下出血。いつ亡くなっても良い覚悟があると実感する。

社協と一緒にボランティア連絡会の役員として工事中の福祉センターを見学。完成したら3階、4階はボランティアが使うことができる。

渡辺さん

ご主人の母と自分の母が同じ頃亡くなる。自分の母は平穏死、義母は胃ろうで肌はつやつや、母は老衰で枯れていった。これで良かったと悩む。

広瀬さん(もと木下さん)

自分の祖母は認知症になり特養で15年間暮らして亡くなる

高倉さん

もしもノートでの自分史は短くて良いと思う、恩師の葬式では簡単な経歴書が配られたのが印象的だった。

突発難聴となり3週間入院。同室の認知症患者さんは夜になると徘徊、騒ぐ。看護師さんの仕事ぶりに感動する。

竹内公子さん

豊田厚生病院は今月初めて「がん患者さんの会」を持つ。

社協のボランティア会議のミニ講座で「誕生学」を聞き感動する。

徳島さん

この2ヶ月は孫のことであれこれ過ごした。

大間知さん

もの作りで産業文化センターのクリエイティブクラブで活動。「あすて」で織り機を作った。

最後に補聴器談義で皆さんが盛り上がりました。

ゆずりはの会 10月定例会 メモ

時：10/12(火) 午後7時～9時 場所：福祉センター 22 研修室

参加者：15名

今後何をするかで皆さんの意見を述べていただきました。医療関係に興味がある提案が比較的多かったので、次のステップとして、この分野で、講師をお招きできないか、検討します。

竹内一良さん

市民講座が終了した後、4人のメンバーと社協の人と集まって話し合ってきた。今後社協から独自でやってほしいと言われたので、9月の社協ボランティア会議で新しく「その一人に 居場所を」と呼びかけグループ作りを始めている。

松田さん

「もしもノート」は今後自分で書き込む。
誕生学の話を書きいてみたい。

高倉さん

皆さんにお任せする。

河野さん

先週 NHK 教育テレビで「地域在宅医療特集」が放映され2つの取り組みが紹介された。一つは島根県日南市(人口5,800人、約半数は65歳以上の高齢者)

町の自治体病院、日南国民健康保険病院では「町は大きなホスピタル。家庭は病院のベッド。道路は病院の廊下」をスローガンに昭和57年、医療と福祉の提携を開始。今も140人の在宅患者を定期往診している。毎週1回行われるケース検討会では、病院の職員、保険士、介護職が情報を共有し、お互いの顔が見える関係の中、在宅療養を支えている。

もう一つは長崎市。開業医たちが連携し、先進的な医療ネットワーク「長崎在宅ドクターネットワーク」を運営している。一人の患者に主治医と副主治医の2人の医師がつき、24時間365日のサポートを展開する。患者の病状が急変、緊急往診が必要になった時、主治医が対応できなくても、副主治医が駆け付ける。地域の総合病院と連携している。ここでは管理栄養士、訪問看護師、薬剤師のネットワークができています。

彼女がかかりつけの菅沼医院が最近「訪問看護を始めました。」という内容のチラシを配ってくれたそうです。豊田市でも在宅医療が進みそうな気がする。

竹山さん

ふれあいのできる居場所は大切、健康体は肉体と精神の両方が大切

林さん

個人的な活動だけではなくて、自治区として仕組みを作り、居場所づくりをしたい
11月11日は介護の日、豊田市では記念して「地域で高齢者を支える取組 情報交換会」を開催するので区長が出席するように働きかけている。

釘宮さん

地域活動は土の人(地元)と風の人(よそから移り住んだ人)の両方で織りなす。

「断捨離」というキャッチフレーズ 老人になる前に物を半分に減らす身辺整理をする。その3原則

1. 一度でやろうとは思わない
2. 自分の物以外には手を出さない
3. 完璧をめざさない

「お母さん業界新聞」を紹介。

井上さん

藤岡地域では社協と一緒に「住民自治」をめざす。

「地域を支える 支える地域」 6つの小学校区で毎年一つずつ実践していく。

本多さん

自分の500坪の土地に高齢者優良賃貸住宅の建設を計画中
もう一度映画上映はどうか。たとえば「おくりびと」

渡辺さん

「ゆずりはの会」の会員は個々に何かをしている。でも会として何かをしてはどうか。
「居場所作り、介護、看護」 テーマを決めてやってみてはどうか。

加藤さん

先回の報告で間違いがあり、鎌田實ではなくて鎌田国男で、この人は民俗学者。
もっと皆で、一つのテーマ例えば葬儀のあり方などを選び、議論を深めてはどうか。

大間知さん

物づくりに興味あり

額田さん

皆さんにお任せする。

徳島さん

「私にとってゆずりはの会は居場所になっている」

竹内公子さん

何か医療に関することでお話を聞く会が持てたらいい。たとえば菅沼医院の「訪問看護の取り組み」とか厚生病院の訪問看護ステーションの元主任さん。

次回の例会

時：11/9(火) 午後7時～9時

場所：福祉センター 22 研修室

介護の日 行事

11/11(木) 午前10時半～12時 市民活動センター

地域で高齢者を支える取組をしている団体の事例発表、意見交換

都合のつく方はぜひ参加しましょう